

#5 キリスト・イエスの内側の各部分の中に生きること によってキリストのからだの実際の中に生きる

サンクス・ギビング特別集会 2019/2/11-17

I. 私たちはキリストのからだの実際を持つとするなら、キリストに私たちの心の中にご自身のホームを造っていたかなければなりません:

A. キリストのからだは建造されるのは、キリストがその霊として私たちの霊の中へと入り、私たちの霊から思い、感情、意志の中へとご自身を拡大し、私たちの全存在を占有することによります。**エペソ 3:16** どうか御父が、彼の栄光の豊富にしたがい、力をもって、彼の霊を通して、あなたがたを内なる人の中へと増強してください。17 またキリストが、信仰を通してあなたがたの心の中に、ご自身のホームを造ることができますように。またあなたがたが、愛の中に根ざし土台づけられ、**B.** キリストのからだの実際は、内住のキリストに対する内なる経験です。

C. 私たちは命としてのキリストに対する内なる経験によってのみ、キリストのからだの実際を持つことができます。

D. キリストが私たちの心の中にご自身のホームを造るとき、私たちは満たされて神の全豊満へと至ります。この豊満は召会、キリストのからだであり、三一の神の団体的な表現です。

E. からだの生活の実際は、計り知れないキリストが私たちの心の中にご自身のホームを造ることの結果です。

F. キリストのからだとしての召会の内容は、私たちの存在の中へと造り込まれたキリストです。【月】

II. 私たちはキリストのからだの実際の中に生きようとするなら、キリスト・イエスの内側の各部分の中に生きる必要があります: **ピリピ 1:8** 私が、あなたがた一同をキリスト・イエスの心の深みの中で、どんなに恋慕しているか、神が私の証人です。**エペソ 4:16** この方から、からだ全体は、その豊富な供給のあらゆる節々を通して、またそれぞれの部分の度量に応じた活動を通して、結合され組み合わされ、からだを成長させ、愛の中でそれ自身を建て上げるに至るのです。

A. キリストは人として、人の内側の各部分とそのさまざまな機能を持っていました。キリストの内側の各部分における経験は、彼の思い、感情、意志、魂、心、霊における経験であり、彼の愛、願い、感覚、思想、決定、動機、意図を含んでいました。【火】

B. パウロは絶えずキリストの内側の各部分を経験した人でした:**ピリピ 2:5** キリスト・イエスの中にあつたこの思いを、あなたがたの内側でも思いとせよ。1. パウロはキリストの内側の各部分(彼の情感、柔和なあわれみ、同情)においてさえ、キリストと一でした。2. パウロは自分の内側の各部分を保たないで、キリストの内側の各部分を自分のものとした:**a.** パウロはキリストの思いだけでなく、彼の内なる存在全体を取りました。**b.** パウロの内なる存在は、変えられ、再組成され、改造されました。**c.** パウロの内なる存在は、キリストの内側の各部分をもって再構成されました。3. キリストの中にあつた真実、すなわち誠実、忠信、信頼に値することはまた、パウロの中にもありました。4. 聖徒たちに対するパウロの愛は彼の天然の愛ではなく、キリストにある愛、すなわちキリストの愛でした。こういうわけで、パウロは彼の天然の愛によってではなく、キリストの愛によって聖徒たちを愛しました。**1 コリント 16:24** キリスト・イエスにある私の愛が、あなたがた一同と共にありますように。

C. キリストを生きることは、キリストの内側の各部分にとどまることを必要とします: 1. パウロはキリストの内側の各部分を経験しました。彼はキリストの内側の各部分の中でキリストと一であり、聖徒たちを恋慕しました。2. パウロは天然の内

なる存在の中で生活をしませんでした。彼はキリストの内側の各部分の中で生活をしました。3. キリストの中にある人になろうとするなら、私たちは彼の内側の各部分の中に、彼の柔和で細やかな感覚の中にいなければなりません。

4. キリストを生きることは、彼の内側の各部分の中に住むことであり、そこにおいて彼を恵みとして享受することです。

D. ピレモンへの手紙には、キリストの内側の各部分の中に生きるからだの生活の絵があります。【水】

E. パウロは、キリストの感覚を彼自身の感覚とすることによって、キリストのからだの実際の中に生きました。からだに対するキリストの感覚は、からだに対するパウロの感覚となりました:

1. キリストのからだを顧慮することにおいて、パウロはキリスト・イエスの内側の各部分を自分自身の内側の各部分としました。2. 私たちはパウロのように、かしらの感覚を自分の感覚とすべきです。これは、私たちがキリストのからだの実際の中に生きるために最も必要なことです。

F. 私たちが肢体としてあらゆる事においてかしらの感覚を持つなら、私たちはからだを考慮し、からだを顧慮するでしょう。**1 コリント 12:26** もし一つの肢体が苦しむなら、すべての肢体が共に苦しみます。もし一つの肢体が栄光を受けるなら、すべての肢体が共に喜びます。27 今や、あなたがたはキリストのからだであり、そして各自は肢体なのです。

III. 私たちがキリスト・イエスの内側の各部分の中に生きれば生きるほど、私たちのキリストのからだの感覚はますます大きくなり、私たちのキリストのからだに対する感覚はますます強くなります: 【木】

A. 私たちはキリストのからだの肢体として、からだの感覚とからだに対する感覚を持つ必要があります。からだは宇宙的であり、からだの感覚とからだに対する感覚もまた宇宙的です。

B. 私たちはキリストのからだの実際の中に生きるために、キリストのからだの感覚を必要とします。

ローマ 12:4 一つの体の中には多くの肢体があり、そしてすべての肢体が同じ機能を持っていないように、

5 私たちも数は多いのですが、キリストの中で一つからだであり、そして各自は互いに肢体なのです。

C. キリストのからだの感覚は、私たちの内側にあるキリストの命の感覚です: 1. 私たちがこの感覚を訓練するなら、それによってからだに関する事柄に感覚を持つようになります。

2. 私たちがこの感覚を養うなら、それによってからだにおける問題を察知することができるようになります。3. 私たちがこの感覚を常に訓練し、また私たちが主を愛し、召会に関心を持つなら、この感覚はからだの感覚となります。【金】

D. 私たちがからだの感覚を持つなら、他の人たちが苦しみ、あるいは幸いであるとき、私たちは彼らと同じ心境になり、同じ困難や祝福を感じるでしょう。

E. 私たちはキリストの内側の各部分の中に生きることによって、キリストのからだの感覚を養います: 1. 私たちはキリストのからだの肢体ですから、キリスト・イエスの内側の各部分の中に生きることによってからだの感覚を持つ必要があります、またからだに対する感覚を持つ必要があります。2. キリスト・イエスの内側の各部分の中に生き、キリスト・イエスの感覚と見方を自分の感覚と見方とすることによって、私たちはキリストのからだの実際にある召会生活を実行します。**ピレモン 7** というのは、兄弟よ、私はあなたの愛によって、大きな喜びと励ましを受けたからです。それは、聖徒たちの心の深みが、あなたを通して新鮮にされたためです。12 彼を私はあなたに送り返しました一彼は、私の心そのものです。【土】

Crucial Point①: キリストの内側の各部分を経験する

OL:パウロは絶えずキリストの内側の各部分を経験した人でした。ピリピ2:3 何事も、自分本位の野心から、また虚栄からするのではなく、むしろ謙虚な思いで、互いに他人を自分自身よりすぐれていると思いなさい。4 おのの自分自身の長所だけでなく、他の人たちの長所にも目をとめなさい。5 キリスト・イエスの中にあつたこの思いを、あなたがたの内側でも思いとしなさい。5節FN「この思い」:「この」は、3節の思うことと4節の目をとめることを示します。このような考え、このような思いは、キリストがご自身をむなしし、奴隷の形を取り、ご自身を低くして、人としての有り様で見いだされた時に、キリストの中にもありました。そのような思いを持つために、私たちは、キリストの心の中で彼と一つである必要があります。キリストを経験するために、私たちはそのような程度にまで、すなわち彼の優しい心の感覚と思いの中で、彼と一つである必要があります。

キリストの内側の各部分は、彼の思い、感情、意志、心、そしてそれらすべての機能を含む彼の存在すべての内側の部分を示します。私たちの内側の各部分…の主導的な部分は思いです。…キリストの中にあつた思いは、今日私たちの中にあるべきです。これは、私たちが彼の思いを私たちの思いとするべきであることを意味します。私たちは自分自身の、天然の思いではなく、キリストの思いを持つ者であるべきです。

I コリント2:16後半でパウロは言います、「私たちは、キリストの思いを持っています」。私たちは有機的にキリストと一であるので、彼が持つておられるすべての能力を持っています。思いは知性の能力、理解する器官です。私たちはキリストのそのような器官を持っているので、彼が知つておられることを知ることができます。ですから、私たちはキリストの命だけでなく、キリストの思いも持っています。キリストは私たちの霊から思いに浸透し、私たちの思いを彼の思いと一にしなればなりません。

「私が、あなたがた一同をキリスト・イエスの心の深みの中で…恋慕している」(ピリピ1:8)。「心の深み」と訳されたギリシャ語は、文字どおりには「はらわた」を意味し、内側の情感、そして柔和なあわれみと同情を表徴します。パウロはキリストのはらわた、すなわちキリストの柔和な内なる各部分においてさえキリストと一であり、聖徒たちを恋慕していました。これは、パウロが自分の内側の各部分を保たないで、キリストの内側の各部分を自分のものとしたことを示します。彼はキリストの思いだけでなく、キリストの内なる全存在も取りました。ですから、パウロの内なる存在は変えられ、再組織され、改造され、再構成されました。彼の内なる存在はキリストの内側の各部分をもって再構成されました。パウロは自分の天然の内なる存在の中で生活しませんでした。彼はキリストの内側の各部分の中で生活しました。

「キリストの真実が、私の中にあります」(II コリント11:10)。ここの「真実」は、誠実、忠信、信頼に値するものを意味します。真実としての、すなわち、誠実、忠信、信頼に値するものとしてのキリストの中にあつたものは、使徒パウロの中にもありました。

「キリスト・イエスにある私の愛が、あなたがた一同と共にありますように」(I コリント16:24)。パウロがコリント人を愛したことは、彼の愛ではなくキリストにある愛、すなわちキリストの愛でした。パウロは聖徒たちを自分の天然の愛によってではなく、キリストの愛によって愛しました。

(ピリピ書で)パウロは、キリストを大きく表現すること、キリストを生きることについて語っています。経験的に、キリストを大きく表現すること、キリストを生きすることは、私たちがキリストの内側の各部分の中にとどまっていることを要求します。

適用: 青年在職/大学院生編

神の願いは、あなたがキリストを享受し、キリストで満たされ、キリストで構成され、キリストと一つになり、他の人にキリストを分与して、キリストのからだを建造することです。

先進国の優れた企業は、人に注意を払い、人材開発のためのTrainingに多大な投資をします。なぜなら、会社の業務を遂行するのは、人であるからです。聖書はさらに強く人に注意を払っており、建造、励まし、慰めのために、人々に神の言葉を語り、供給することが述べられています。チーム・ビルディング(建造)、励まし、慰めは仕事でも必要です。企業に最も求められる人材は、人々を一つのチームとして建造して、会社を同じ目標に向かって前進させることのできる人です(これは召会も同じです)。このような人は、人を励まし、慰めることができるはずですが、そうでないと建造に至ることはできないからです。

I コリント14:3 ところが預言する(神の言葉を語る)者は、建造と励ましと慰めを、人に語るのです。

日本の伝統的な会社の管理職は、本質よりも細かい点に注意を払い、減点方式で消極的に考えるので、厳しく社員に要求しがちです。彼らはあまり励ますことや慰めることをしないので、チーム・ビルディングに至ることが困難です。例えば彼らは社員のできない点に注意を払いすぎて(この時、それが本質的に重要かどうかはあまり注意していない)、できる積極面に注意を払いません。

II テモテ1:7を読んでください、「というのは、神が私たちに賜わったのは、臆する霊ではなく、力と、愛と、冷静な思いとの霊であるからです」。召会の奉仕でも、会社の仕事でも、あなたは、(1)愛をもって、人を励まし、慰め、(2)冷静な思いを持って、本質的に重要な事柄と二義的に重要な事柄を区別し、(3)力をもってすべての事柄を行ない、(4)決して不信仰になり、臆病にならず、大胆になってください。この霊は、神の霊とミングリングしたあなたの霊です。

主は人に対して優しい心の感覚を持っています。それは、すべての人が成就され機能するためです。あなたは人に対して負担を持ち、彼らに対する優しい心をもって、励まし、慰め、建造して、人々を仕事ができる人に、或いは奉仕ができる人にする必要があります。このようなことができるために、あなたはキリストの内側の各部分を経験し、キリストの思いを自分の内側の思いとすることを学んでください。そのためにあなたは自分の欲望、情欲、個人主義などを十字架に付けることを経験する必要があります。基本的に他人の思いを自分の思いとするためには、天然の人は十字架に付けられる必要があります。神の願いであるからだの建造を見つめて、十字架を経験し、キリストの思いを自分の思いとし、人々を成就することができますように。アーメン!

祈り:「おお主イエスよ、私はあなたを愛し、あなたの願いを愛します。召会生活において、キリストのからだの実際が拡大するように。そのため、私は召会と会社において、キリストの思いを自分の思いとします。キリストの優しい心遣いを持って人々を成就することができますように！」

補528 召会のビジョン—キリストのからだとして(英1225)

- 1 主よ、からだなる主、せつに知りたし。肢たいのなかの主、見ることねがう。頭首権だけでなく、単どくではなく、からだのキリスト、われらは見たし。
- 4 主よ、単どくとどめ、からだに向けて、しょう会の感かくを知ることねがう。建造のいしとなり、主のねがい知り、団たいてきに主を大きくひょう現す。

Crucial Point②:かしらの感覚を持ち、からだを考慮する

OL:私たちが肢体としてあらゆる事においてかしらの感覚を持つなら、私たちはからだを考慮し、からだを顧慮するでしょう。
Iコリント 12:12 それは、体が一つであっても多くの肢体があり、体のすべての肢体が多くあっても一つの体であるように、キリストも同様だからです。13 なぜなら、私たちはユダヤ人もギリシャ人も、奴隷も自由人も、みな一つ霊の中で、一つからだの中へとバプテスマされ、みな一つ霊を飲むようにされたからです。14 体は一つの肢体ではなく、多くの肢体から成っています。15 もし足が、「私は手ではないから、体に属していない」と言ったとしても、それで体に属していないわけではありません。16 またもし耳が、「私は目ではないから、体に属していない」と言ったとしても、それで体に属していないわけではありません。17 もし体全体が目であるとしたら、どこで聞くのでしょうか？ もし全体が聞くとしたら、どこでかぐのでしょうか？ 18 しかし今、神は各肢体を、それぞれ体の中に、彼の意図するままに置かれました。19 もし全部が一つの肢体であるとしたら、体はどこにあるのでしょうか？ 20 しかし今や、肢体は多くあっても、体は一つです。21 目は手に向かって、「私はあなたを必要としない」と言うことはできません。また頭は足に向かって、「私はあなたを必要としない」と言うことはできません。22 それどころか、ほかより弱く見える体の肢体こそ、むしろ必要なのです。…26 もし一つの肢体が苦しむなら、すべての肢体が共に苦しみます。もし一つの肢体が栄光を受けるなら、すべての肢体が共に喜びます。

私たちは主とさらに多く交わることによって、からだの感覚を養う必要があります。私たちが主とさらに多く交わるとき、私たちの内なる感覚は自然に発展します。さらに、もし私たちがこの交わりに従順を加えるなら、私たちの内なる感覚はさらに鋭く、さらに豊かになります。感覚が来る時、私たちはその感覚に緊密に従うべきです。もし内なる感覚が私たちに止まることを願うなら、私たちは止まるべきです。もしそれが私たちに行くことを願うなら、私たちは行くべきです。このようにして、私たちの内なる感覚は、鋭くなり、豊かにされます。私たちの内なる感覚は、私たちが主と交わることと彼に従順になることを通して発展します。ですから、私たちはこの感覚を常に訓練すべきです。これは、私たちが霊的な事柄に触れるとき、この感覚を常に用いなければならぬことを意味します。

私たちがからだの感覚を活用するとき、良い状況が發展します。困難な状況にある肢体は、一人でこの重荷を担うのではなく、彼の仲間の肢体が彼と共に重荷を担うでしょう。私たちは単に求められたという理由だけで、だれかのために祈ることはもはやなくなるでしょう。そうではなく、私たちはからだの負担から祈るようになります。ときどき、一人の祈りでは十分ではなく、からだの祈りの真の必要があるのですが、この祈りはやはり自然なものです。例えば、からだの感覚を持つ人は、ある兄弟に困難があり、ある姉妹に重荷があることを感じるすることができます。その兄弟の困難に対する感覚は、その人へと伝わり、その姉妹の圧迫の感覚も、その人の霊に加えられます。その人はその兄弟と姉妹と同じ感覚を共有します。この感覚は彼を圧迫し、彼を強いて、主の御前に出させて、その兄弟と姉妹のために祈らせます。このようなとりなしは、からだの感覚から来るとりなしです。このような事がからだの中にはあり、それは私たちが内側で弱いか強いかを証明し、また神の子供たちに対する、キリストの肢体に対する私たちの関心の程度を証明します。

からだの肢体が苦しむとき、すべての肢体は心地悪さを感じます。私たちが共に仕える時も、このようであるべきです。ある人に困難があるとき、他のすべての人は同じように感じるべきです。ある人が喜ぶとき、すべての人も共に喜びます。これは正常な状態です。

適用:中高生/大学生編

召会はキリストのからだのようであるのではなく、キリストのからだです。あなたは人間の体を見て、キリストの宇宙的なからだを理解することができます。あなたの体には、頭、手、足、目、口、耳、鼻などの器官があり、どれも体にとって重要です。同様に、キリストのからだの中にはさまざまな兄弟姉妹がいます。彼らの機能は異なっていますが、皆からだのために機能しています。各肢体は他の異なる肢体の、からだのための機能を受け入れ、自分自身もからだのために機能します。

あなたは主との親密な交わりの中で、兄弟姉妹の機能によって助けられる必要があります。例えば受験大学を決定することで、あなたは経験者の兄弟姉妹に交わり、助けを受けることができます。またあなたは人間関係で困っている場合でも、先輩の兄弟姉妹と共に祈ってもらい、交わってもらうことができます。あなたはからだの一肢体ですので、他の肢体から益を受けることができます。あなたがからだのビジョンをはっきりと見て、からだの生活を実行することができます。あなたの学校生活は大いに祝福されるでしょう。

同時にあなたはからだのために、また他の兄弟姉妹のために、機能することを学んでください。大学生の兄弟姉妹は大学受験生を助けることができます。高校生の兄弟姉妹は、中学生や小学校高学年の兄弟姉妹を助けることができます。それだけでなくあなたは自分と同じ世代の兄弟姉妹も助けることができます。右の写真は、赤ちゃんが別の赤ちゃんにミルクを飲ませているのです。これはあなたが哺乳瓶を持つことができれば、あなたがどんなに幼くても他の人を牧養することができることを示すために提示しています。**箴言 11:25 祝福する魂は栄え、人を潤す者は自分も潤される。**



あなたは特に苦しんでいる兄弟姉妹と共に苦しみ、またすばらしい成果を上げた兄弟姉妹と共に喜ぶべきです。この苦しみや喜びを分け合うこともからだの生活の重要な部分です。

祈り:「おお主イエスよ、私はキリストのからだの中へとバプテスマされた時に、キリストのからだの一肢体になりました。主に感謝します。からだの中の一肢体として、私は他の肢体から助けを得ることができます。主よ、私の心の目を開いてください。兄弟姉妹に開き、彼らからの助けを享受することができますように。また私は他の人を助けるために、他の人のために祈り、供給することができます。私は十分に強くないとはいえ、哺乳瓶を持つ力は十分あります。特に苦しんでいる兄弟姉妹を私なりに助け、供給することができますように。また優れた成果を上げた兄弟姉妹がいたら、ねたむのではなく、彼(あるいは彼女)と共に喜び、祝います。アーメン」。

606 召会 — その建造 (英 840)

- 1 自己、てん然を捨て、けんぞうされて、ともにみやとなり、えいこう満たす。たかぶり、たんどく、とく異せいを捨て、主の権威にふくし、主の住まいとなる。
- 2 せい長し、変えられ、供給し、建造され、機のを果たして、ひとをじょう就す。自分にぞくすもの、たかくひょう価せず、すべてかたよらず、きん衡をたもつ。
- 3 かしらにつながり、主の豊富、享受す；かみ増しくわり、円じゅくにいたる。主のあいを知って、かん全にせい長し、キリストの豊富の身のたけとなる。

I. 高い福音

第六題目 キリストは神である(下)

ヘブル1:8 御子については、「神よ、あなたの御座は永遠であり、あなたの王国の杖は公正の杖です。

キリストの死は、彼が神であることを証明する

彼は死なれる前に、弟子たちにあらかじめ彼の死を告げられました。彼の死は、数百年前に、メシヤについて預言者があらかじめ告げた予言の正確な成就でした。旧約において、詩篇 22:15~18 はキリストの死の光景を描写しています。「私の力は陶器のようにかわき、私の舌はあごにつく。あなたは私を死のちに伏させられる。まことに、犬は私をめぐり、悪を行なう者の群れが私を囲んで、私の手と足を貫いた。私は自分の骨をことごとく数えることができる。彼らは目をとめて私を見る。彼らは互いに私の衣服を分け、私の着物をくじ引きにする」。これは、メシヤがどのように死なれるかを、ありありと描写しているものです。福音書の記録を読むなら、これはまさしくキリストが死なれた方法であることがわかります。キリストが十字架にかけられた時、確かに彼の手と足は、刺し貫かれたのです。マタイ 27:35 は、兵卒たちがキリストを十字架につけた時、「彼ららくじを引いて、彼らの間で彼の衣服を分けた」と言っています。これは、旧約の予言の言葉の文字どおりの成就です。

キリストが死なれた時と方法は、何百年も前から旧約で予表されてきました。キリストは死なれた時、「完了した！」と言われました。キリストの死は、キリストの終わりではありませんでした。むしろ、彼の働きは彼の絶頂でした。キリストの死は、超自然的な出来事を引き起こしました。それは彼の死の超自然的性質を反映するものです。聖書は、キリストはすべての罪人の身代わりとして死なれました。キリストの贖いの死の永遠の効力が、キリストが神であることの証拠です。

キリストの復活は、彼が神であることを証明する

彼が墓の中におられたのは、七十二時間以内でした。三日目にキリストは墓からよみがえられました。これは歴史的事実です。どのような歴史家も、これを覆すことはできません。彼は体をもって復活し、四十日にわたって何度も弟子たちに現れました。

多くの現代の批評家は復活のことを、初期の弟子たちがでっち上げた作り話、あるいは物語であるとして退けています。しかし事実、非常に多くの証し人たちが、復活の後にキリストを見ています。そして復活のキリストに出会ったことが、彼らの生活に大きな変化をもたらしています。キリストが復活される前、弟子たちは恐れに満ち、落胆していました。ペテロでさえ、主を三回否みました。彼の復活の後、この同じ人々が大胆になり、積極的になっているのです。ペテロはペンテコステの日に立ち上

がって、三千名以上の人々に宣べ伝えた最初の人でした。どのような作り話も、そのような命を造り変える変化を起こすことはありません。また弟子たちの宗教的妄想であったとも考えられません。なぜなら彼らはみな冷静に語っていますし、責任のある振る舞いをしているからです。初期の召会は、自分を欺く精神異常者の団体ではなく、正常で正直な、冷静な思いの信者たちの団体でした。イエス・キリストの復活は、人類歴史における最大の歴史的事実です。

イエスを神と信じる

もし主の名を呼んで彼を信じるなら、命を与える霊であるキリストは、その人の中に入り、人生を変えてくださいます。もしあなたが彼に心を開くなら、彼はあなたの中に入って来られ、彼の王国をあなたの中に打ち立てられます。あなたは闇の国から光の王国へと移されます。キリストは内側であなたの新しい命となり、あなたはキリストにあって新しい人となるでしょう。

詩歌 382 キリストを経験する — 命として

1. 栄光なるキリスト、 　　かみのえい光の表現！
　　とわに無限なるかみは、有限なひととなる。
(復)かみの化身キリストは、 おく義 ゆたか、エンジョイ！
　　聖のせい、ひとのひと、 われ霊で受け継ぐ！
2. かみのゆたかさは、 　　ながうちにやどりぬ；
　　にく体もてあがない成し、いまその霊となる。
3. ちちのすべて継ぐ、 　　なれ、わが霊にありて、
　　じっさいのれいとして、なれを経験させる。
4. れいなることばは、 　　なが実さいもたらず；
　　ことば受け、霊触れなば、わがきょう給となる。
5. おおいのなにかお、 　　かがみとし栄光うつし、
　　ながかたちにわれ変え、れをあらわさす。
6. 聖となり、勝利得る、 　　みちはこのほかなし；
　　いのち触れ、霊に生きる、みちはほかになし。
7. なが霊しみわたり、 　　かく部分かみで満つ！
　　ふるきひと捨て、ともに 　　かみの住まいとなる。